

小笠原諸島と森作りのシンボル「オガサワラグワ」

令和元年9月12日

みなさん、小笠原諸島って知っていますか？

東京から1,000km離れた南の島で、現在父島に2,157人、母島に456人暮らしています。東京竹芝桟橋（竹芝客船ターミナル）から父島二見港まで貨客船「おがさわら丸」（旅客定員892名）で24時間、揺られないとたどり着けない場所です。母島は父島から59km離れており、そこに行くためには、さらに2時間「ははじま丸」に揺られます。

小笠原諸島周辺の海域ではザトウクジラが回遊し、また一步林内に踏み込むと、シダ類等が生い茂る映画ジェラシックパークのような固有種・絶滅危惧種の森になり、陸産貝類が眼を出しそこには特別天然記念物のメグロ（ハハジマメグロ）やアカガシラカラスバト（アカポップ）が飛び回っている、まさに大自然が体験できる島です。

その小笠原諸島に多数ある希少樹種や絶滅危惧種の中で、オガサワラグワは独特の木理の美しさから建材、家具、装飾、彫刻用に重用され、高値で取引されたことから、明治期に大木のほとんどが伐採され、わずかに残された生育地でも、造林の促進のため持ち込まれたといわれている移入種アカギが大繁殖し、貴重なオガサワラグワ遺伝資源の減少・滅失が特に危惧されるようになりました。

そのため私達、林木育種センターは積極的な保存の必要性が高いと考え、関東森林管理局とともに、父島では小笠原野生生物研究会の方の力を借りながらオガサワラグワの野生復帰試験を、母島ではアカギ駆除跡地にオガサワラグワを含む母島由来の希少樹種等を植栽した希少遺伝資源保存林を設定し、調査や保育管理を年2回程度実施しています。

ところで小笠原諸島は昭和43年(1968年)6月26日に米国の統治下から日本に復帰を果たし、2011年6月に世界遺産に登録され昨年平成30年(2018年)に返還50周年を迎えました。父島では「オガグワの森」、母島では「母島の森」と題して村民等総力でオガサワラグワ植樹会が開かれました。当時の様子はこちらをご覧ください。

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/business/issue/documents/30-5.pdf>



・「オガグワの森プロジェクト」の植樹会



・オガサワラグワの苗木



・わずかに残るオガサワラグワ（弟島）

令和元年7月末には、母島と父島で小笠原村主催のオガサワラグワをテーマにした講演会「オガグワの集い」が開催されました。講演会では国、都、村やNPOなど各機関が実施している取り組みの紹介と、世界遺産に関する村民との意見交換会が行われました。

私達、林木育種センターもオガサワラグワ保全の取り組みと組織培養による保存の方法について発表してきました。

講演会は盛況で村民の方はもちろん、各機関の「オガサワラグワ」に対する愛情を素晴らしく感じる集いでした。

※オガサワラグワにつきましては「里親計画」を行っており、併せてこちらをご覧くださいと幸いです。

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/business/issue/documents/31-5.pdf>



・母島での「オガグワの集い」



・父島での「オガグワの集い」

(遺伝資源部 探索収集課)